

大変なときこそ、感謝の気持ちを

臨時休校も2週目に入りました。みなさんもそれぞれの家庭で、いろいろ工夫して過ごしていることでしょうか。休業中の学習や生活について役に立つコンテンツやサイトが、弓削中学校や文部科学省などいろいろなホームページで紹介されているので、機会があればぜひのぞいてみてください。

さて、みなさんも今回の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や、臨時休校などを通して、今まで当たり前と思っていたことがそうでなくなり、いろいろな不自由や不安を感じている人が多いだろうと思います。当たり前だったことが実は多くの人の努力で支えられていたことに改めて気づき、支えてくれている人への感謝や、今もこの困難な状況の中、私たちの生活を支えてくれている人や、感染症に立ち向かっている人の存在を忘れてはいけないなどと思います。



2011年3月、我が国は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われました。犠牲者は約1万5900名、今も約2500名の行方がわかっていません。被災者の救助や行方不明者の捜索のため、全国から警察、消防、自衛隊などが被災地へ出動しました。

震災直後福島県のある被災地で、行方不明者の捜索などで行き来する警察や自衛隊の車両に、「いつもありがとう」「おかえり」というメッセージを書いたボードを持って、朝夕手を振り続けた幼い姉弟がいました。雨の日も風の日も1日も欠かさず手を振り続けたそうです。被災地支援の車両が多く通る時間に合わせ、平日の朝と夕方それぞれ1時間あまり、手作りのメッセージボードを掲げて、現場と宿舎を結ぶ国道脇で車両を待って手を振り続けました。時には支援の車両が1台も通らない日もあったそうです。



2人を見た警察官や自衛隊員は手を振り返したり、「いつもありがとう」「風邪ひかないようにね」とマイクで応えたりしたそうです。「明るく元気な子どもたちの声援に、がんばろうと思えた」「遺体の収容で心を痛めている者もいるが、子どもたちに励まされた」「2人の応援に勇気づけられた」と言っていました。

この2人の将来の夢は「人の役に立つ仕事がしたい」のだそうです。2人は直接、警察官や自衛隊員に助けてもらったわけではありませんし、誰かに言われて立つようになったわけでもありません。それなのに、2人が支援車両に手を振り続けようと思ったのは、どんな思いからなのでしょう。

支えてくれる人の善意に応える生き方とは・・・

今、みなさんはやりたいこともやれず窮屈な毎日だだと思います。だからこそ、周りの人の「善意」を敏感に感じられるのではないのでしょうか。私たちのまわりには、大勢の「ありがとう」を伝えたい人がいると思います。そうした人にどんな生き方をすれば応えることができるか、考えてみましょう。

(先生方も、休業中にみなさんが少しでもいい過ごし方ができるような情報提供や、学校再開後に向けての準備をがんばっています。)



